

JSQC ニュース

No.276

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03(5378)1506 FAX.03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

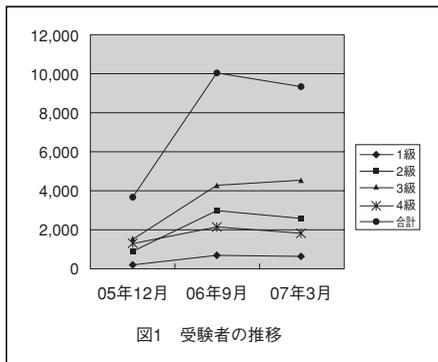
- 1-トピックス 拡がりをみせるQC検定
- 2-私の提言 学会のウェブコンテンツについて
- 2-ルポルタージュ 第101回関西講演会ルポ
- 3-第321会事業所見学会ルポ/論文募集/2月の入会者紹介/お知らせ
- 4-行事案内

拡がりをみせるQC検定

(財)日本規格協会 品質管理検定センター 平岡 靖敏

2005年12月に始まったQC検定。当初は日本規格協会が主催し、これを日本品質管理学会が認定する形でスタートしましたが、第2回目からは日本科学技術連盟も主催者に加わり、日本の品質管理を代表する団体がまさに一丸となって制度の普及にあたっており、この3月には第3回目も実施されました。

全級の受験者数は初回の約3,600名から約10,000名、9,360名と推移しています。3回目は多少減少しましたが、試験間隔が縮まったことが主な原因とされます。

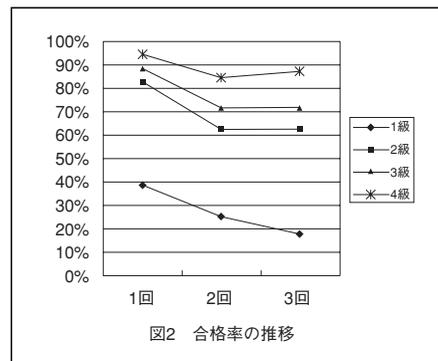


各級の受験者割合は、

1級 5%⇒6%⇒6%、2級23%⇒29%⇒27%、3級41%⇒43%⇒48%、4級32%⇒22%⇒19%と推移しています。品質管理の専門家を対象としている1級の比率に変化が無いのに対して、3級、4級は大きく変化しています。これは初回の試験では確実な級を受験しようとする意識が働いたことと、4級は公式テキストが準備されて受け易かったことが要因と思われる

す。また、3級の受験者層が一番多いことから、3回目には約5割が受験する結果となりました。

合格率は、初回から2回目ではすべての級でかなり大きく下がりましたが、2～3回目は特殊要因のあった1級*を除けば、ほぼ同じ合格率となっています。ちなみに第3回の合格率は、1級17%、2級62%、3級72%、4級88%でした。



QC検定は1級～4級に分かれていますが、その中でも特に普及に力を入れているのが4級、3級です。

昨今、労働形態の多様化が急速に進み、派遣社員に代表される短期雇用社員などの比率が大きくなっていますが、ほとんどの企業ではこれら短期雇用社員に対しては教育を実施しておらず、そのため現場において色々な問題が発生しています。しかし、企業が短期雇用社員に求めるレベルの知識を習得するのはさほど困難ではなく、簡単なテキスト等を活用して基本的な知識・スキルを独自に学べるレベルと言えます。QC検定としてはこのような人々に品質管理を学んでもらい、その

証として4級に合格するという仕組みにより、現場の底上げにつなげたいと考えています。

さらに、大学生や高専生、高校生にも品質管理を学んでもらうことで、将来の社会人の品質意識向上を図ることを考えています。開始当初より工業高校関係に働きかけた結果、昨年7月に工業高校生対象のジュニアマイスター制度の対象資格に位置づけられ、工業高校生の受験が増加しつつあります。

これまでのところ、企業が受験費用を負担していると思われる受験者が8割程度あります。社員教育の一環としてQC検定を活用して頂いていることになりませんが、これもQC検定の狙った目的の一つです。

既に数十社において、社内の資格制度にQC検定を取り入れて頂いたり、社内資格と同等のものに位置づけて頂いたりしています。また、ある企業では工場の品質管理体制のレベルを示したり工場間を比較する一つの指標として、「○級が何人、◎級が何人」という形での使用を検討されたりしています。

今後も公益性の高い制度として、透明性、公平性を十分に確保しつつ運営して参りますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

*1級は第2回の際に、品質管理士制度を停止するにあたり、QC検定を受験した品質管理士が160名余りあり、その合格率が高かったため、全体の合格率が25%程度となったが、これらの方を除いた合格率は第3回目と同様であった。

● 私の提言 ●

学会のウェブコンテンツについて

電気通信大学 システム工学科 講師 山本 渉



専門は品質管理です、と断言できるほどにはアクティビティの多くない私が、ウェブサイトの運営をお手伝いし始めてから一年半になります。魅力あるウェブサイトにして、と意気込んでいましたが、最近少し手探りです。

事務局の皆様のご尽力で、各種行事の案内や表彰、学会の現状などのコンテンツは、ほとんどラグなく更新されています。ニュースも電子化して、提供していただいております、とても感謝しています。

会員相互の相談の場は、品質管理相

談室を関西支部のご協力のもと、順調に活用されています。具体的な問題についての議論でも、詳細を記さずにお互いに察してのやりとりがあり、なるほど、と感心させられます。

学会のウェブサイトが持つ会員サービスという役割については、今後も事務手続きの省力化と情報提供を強化していく予定です。しかし、品質管理に興味を持っていただく、という役割で悩んでいます。これは会員サービスに留まらず、もう少し広い視点でのコンテンツ提供が必要となります。

学会誌編集委員会のご尽力で編集され品質誌に掲載された特集「TQM ツールボックス」を、ウェブ化する許可を頂戴しました。これはご協力いただきました多くの先生による解説から成ります。公開範囲と掲載後

の内容の更新について未整理の部分があり、作業が停滞していますが、近々、公開を始める予定です。今後も、品質管理の情報提供という意義でのウェブ公開に向いている記事等がありましたら、お願いさせていただきたくております。

また、日本の品質管理の黎明期、また学会の黎明期にご活躍なされた先生方、諸先輩方が、どのようなビジョンをお持ちで、それらはその後、皆様にどう受け継がれて発展してきたかなど、品質管理の歴史を人の側面から捉えるために、皆様からの投稿をウェブにお寄せいただくのはどうだろう、と考え始めています。TQCに関する書籍で読める部分もありますが、品質管理史といった堅苦しいものではなく、日経新聞の紙面の最後に掲載されている交遊抄のような気軽なものを。ご本人にご執筆いただくのも大歓迎ですが、影響を受けた周囲の皆様にお書きいただくことで、いろいろな発見があるかもしれません。いかがでしょうか。

第101回 関西
講演会ルポ

「環境配慮型ものづくり」

2007年3月7日(水)、第104回講演会が標記のテーマのもと大阪・中央電気倶楽部にて開催された。

「環境配慮型ものづくりと海外の動向」

米国Northeastern大学 教授 Surendra M. Gupta 氏

「環境に配慮したものづくり」のテーマに早くから取り組まれているGuputa教授の来日を機会に中島健一氏の解説も含めた通訳により分かりやすく講演を拝聴することが出来た。Guputa教授は1997年にLRM (Laboratory for Responsible Manufacturing) を立ち上げ、以来、270編もの論文や著書があり、12名のPhDを育てられている。

上記のコンセプトは新製品を開発する際にその製品の設計段階でコンセプトを折込み、最終消費者への配送から究極的には製品のライフサイクル最後の廃棄に至るまでを考慮することを示している。さらに、その実現の為に法律と経済的インセンティブを考えると

もに、現在、欧米で取組まれているそのコンセプトにより開発した製品を廃棄する過程で、分解工程での問題点や課題の紹介があり、興味深い内容であった。

「松下電器における環境配慮設計の取り組み」

松下電器産業(株) 環境本部 参事 神 恵一氏

引続き、企業の環境配慮型設計についての事例として松下電器産業の取り組みについて神恵一氏より講演があった。

同社は21世紀の事業ビジョンに取り上げられている「地球環境との共存」を受けて、環境行動計画のグリーンプラン (GP) 2010の中で、生活の質を高め新たな暮らしの価値創造を社会に普及するためにグリーンプロダクツの開発の仕方を見直しその成果を上げた。

具体的には持続可能性追求型製品 (スーパーGP) の開発を目指し、松下グループ各社では既に37製品をスーパーGP/ダントツGPの認定をしている。その中で特に環境に優れたいくつかの製品の特徴の説明があり、ヒートポンプをユニット化した斜めドラム式洗濯乾燥機や真空断熱材を使用した高性能冷蔵庫など、環境に配慮した電化製品や部品の開発状況に参加者の興味を引いた。

宮下 文彬 (関西大学)

第321回 事業所見学会 ルポ

米海軍横須賀基地 艦船修理廠 (SRF)

2007年3月19日米海軍横須賀基地にて、第321回事業所見学会が開催された。テーマは「日米の文化を越えた改善 リーンの紹介」で、予定募集人員を大幅に上回る44名が参加した。

艦船修理廠 (SRF) は、第七艦隊の艦船11隻の修理・改修工事を行っている米国海軍の組織で、「第七艦隊の艦船を機能できる状態に保つ」を使命にしている。およそ2000人の日本人従業員、200人を超える米軍人、米民間人によって構成されていて、今年設立60周年を迎える。

冒頭、SRFのトップであるダグラス大佐より、「リーン (LEAN)」活動と名付けられたチーム改善活動へ取り組む熱い思いが語られた。

つづいて、バス2台に分乗して基地内を見学した。第7艦隊の旗艦「キティーホーク」がちょうど入港し

ており、その大きさに圧倒された。また、基地内には学校、病院、映画館、ボーリング場などまであり、まさしく町となっている。

SRFでは、1992年にQCサークル活動として始まった改善活動であるが、その後種々形態を変え、現在は米国防省で導入された「リーン (LEAN)」活動として、佐世保基地と共に取り組んでいる。

特徴的なのは、艦船の入港による業務負荷の変動に合わせて、時間的余裕のある時に短期集中 (5日間程度の期間を設定) して活動していることである。その間は改善活動に100%時間をあてる方式をとっている。また、本年はアメリカのミルウォーキーで開催されたASQの大会へ4サークルを派遣した。英語での発表とハードルは高いが、達成感も非常に強く、メンバーのモチベーションアップにも熱心に取り組んでいる。

日米での言葉の違い、文化の違いを乗り越え、改善 (Kaizen) という共通の概念のもと、トップと一体となって熱心に活動に取り組んでいることを知ることが出来、大変有意義な見学会であった。

羽田 源太郎 (コニカミノルタビジネスエキスパート(株))

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

2007年2月の入会者紹介

2007年2月26日の理事会において、下記の通り正会員19名、準会員7名、賛助会員2社の入会が承認されました。

.....
(正会員19名) ○近藤 浩樹 (ラ・ヴィータ) ○上野 仁太郎 (松下電器産業) ○根本 知明 (三菱重工業)

○Andreas Gehrman (青山学院大学) ○土屋 智子 (しみず園芸) ○村田 忠正 (滋賀保健研究センター) ○小櫃 知克 (バルク) ○小澤啓洋 (光明会) ○河合 政美 (東京ほくと医療生活協同組合) ○保坂一夫 (竹中工務店) ○舟橋 次男 (ダイヤモンドM・R・M協会) ○小川 泰幸・鈴木 直人 (日野自動車) ○近藤 秀夫 (三重県環境保全事業団) ○廣江 智 (養和会) ○村田 敏一 (松下電池工業) ○内田 久 (東京海上日動火災保険) ○鹿糠 悦夫 (東京大学付属病院) ○藤江 昭 (藤江プランニング)

.....
(準会員7名) ○朴 明花・島村 瞬・正木 善雄・村上 哲也・桑名 翔・横島 正之 (中央大学) ○高玉 (朝日大学)

.....
(賛助会員2社2口) ○キャノンファイテック ○サトー

正会員2924名

準会員93名

賛助会員176社203口

公共会員22口

お知らせ

科学研究補助金 (基盤研究 (A)) 交付

研究代表者：宮川雅巳 (東京工業大学・大学院社会理工学研究科・教授)

平成19年度交付額：9,490,000円

研究期間：平成19年度から22年度までの4年間

研究課題：「品質工学 (タグチメソッド) の理論と応用に関する学術的研究」

本研究課題は、(社)日本品質管理学会テクノメトリックス研究会を母体として進められます。品質工学の原理を統計数理的側面から明らかにし、SQCとの融合を目指すものです。

なお、研究成果は本学会に報告されます。

行事案内

●第56回クオリティバブ (本部)

テーマ：「開発から起業そして事業展開」
 ゲスト：羽方将之 氏 (カシオ計算機株)
 日 時：2007年5月23日(水)18:00～20:30
 会 場：日本科学技術連盟
 東高円寺ビル5階研修室
 定 員：30名
 参加費：会員3,000円 非会員4,000円
 準 会 員・一般学生2,000円
 (含軽食・当日払い)
 詳 細：ホームページをご覧ください。
 申込方法：本部事務局宛E-mailまたは
 FAXにてお申し込みください。

●第83回研究発表会 (本部)

日 時：2007年5月26日(土)・27日(日)
 会 場：日本科学技術連盟
 東高円寺ビル
 プログラム：
 ・5月26日(土)
 10:00～11:10
 チュートリアルセッションA
 「新しいブランドマネジメントの立
 脚点～コアコンピタンス戦略基点
 のブランドマネジメント～」
 加藤雄一郎 氏 (名古屋工業大学)
 11:20～12:30
 チュートリアルセッションB
 「製造業の課題と日野自動車の「も
 のづくり」改革について」
 蛇川忠暉 氏 (日野自動車株)
 13:30～17:45 研究発表会 4会場
 18:00～19:30 懇 親 会
 ・5月27日(日)
 10:00～16:45 研究発表会 4会場
 参加費：
 チュートリアルセッション・研究発表会
 会 員6,000円 (締切後6,500円)
 非会員8,000円 (締切後8,500円)
 準会員3,000円・一般学生4,000円
 研究発表会のみ(1日参加/2日参加とも)
 会 員4,000円 (締切後4,500円)
 非会員6,000円 (締切後6,500円)
 準会員2,000円・一般学生3,000円
 懇親会
 会 員・非会員 4,000円
 準会員・一般学生2,000円
 申込締切：2007年5月16日(水)
 申込方法：

ホームページからお申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

●第324回事業所見学会 (関西)

テーマ：技術・技能伝承活動 (仮)
 日 時：2007年6月12日(火)13:30～6:30
 見学先：積水化学工業株 滋賀栗東工場
 定 員：30名
 参加費：会 員2,500円 非会員3,500円
 準会員1,500円 一般学生2,000円
 申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所
 属・連絡先を明記の上、関西
 支部事務局までE-mailまたは
 FAXにてお申し込みください。

●第114回シンポジウム (本部)

テーマ：なぜソフトが組み込まれると品
 質が悪化するのか？
 日 時：2007年7月3日(火)9:55～17:40
 会 場：日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部
 1号館3階講堂
 定 員：150名
 参加費：会 員5,000円(締切後5,500円)
 非会員7,000円(締切後7,500円)
 準会員2,500円 一般学生3,500円
 申込締切：2007年6月26日(火)
 プログラム：
 基調講演「ソフトが組み込まれると
 品質が悪化する？」
 チュートリアル
 「ソフトウェア品質向上の全体像
 ～SQuBoK による概説」
 事例1「メカから見たソフトの品質」
 事例2「エレキから見たソフトの品質」
 事例3「ソフトから見たメカ・エレの品質」
 パネルディスカッション
 「なぜソフトが組み込まれると品
 質が悪化するのか？」
 申込方法：同封の参加申込書にご記入の
 上、本部事務局までお申し込
 みください。

●第57回クオリティバブ (本部)

テーマ：「ヘリコプターに少年の夢を
 乗せて」
 ゲスト：松坂敬太郎 氏 (ヒロボー株)
 日 時：2007年7月13日(金)18:00～20:30
 会 場：日本科学技術連盟
 東高円寺ビル5階研修室

定 員：30名
 参加費：会員3,000円 非会員4,000円
 準 会 員・一般学生2,000円
 (含軽食・当日払い)
 詳 細：決まり次第ホームページに掲載
 いたします。
 申込方法：本部事務局宛E-mailまたは
 FAXにてお申し込みください。

●第84回研究発表会 (中部) 発表募集

日 時：2007年8月29日(水)10:40～16:40
 会 場：名古屋工業大学
 申込締切：
 発表申込締切：5月31日(木)
 予稿原稿締切：7月27日(金)必着
 参加申込締切：8月22日(水)
 研究/事例発表の申込方法：
 3月送付の発表申込要領をご覧ください。
 参加申込方法：
 7月送付予定の参加申込書にご記入の
 上、中部事務局までお申し込みください。

●第85回研究発表会 (関西) 発表募集

日 時：2007年9月21日(金)
 13:00～17:00 (予定)
 会 場：大阪・中央電気倶楽部
 5階513号室
 申込締切：
 発表申込締切：7月5日(木)
 予稿原稿締切：9月5日(水)
 研究/事例発表の申込方法：
 同封の発表申込要領をごらんください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
 本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
 TEL 03-5378-1506
 FAX 03-5378-1507
 E-mail：apply@jsqc.org
 事務局携帯：090-9128-7979
 中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1
 白川ビル別館
 TEL 052-221-8318
 FAX 052-203-4806
 E-mail：nagoya51@jsa.or.jp
 関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25
 TEL 06-6341-4627
 FAX 06-6341-4615
 E-mail：kansai@jsqc.org